

図3.2 SC-1坑の生産履歴（蒸気流量、熱水流量、総流量、坑口圧力の経年変化）

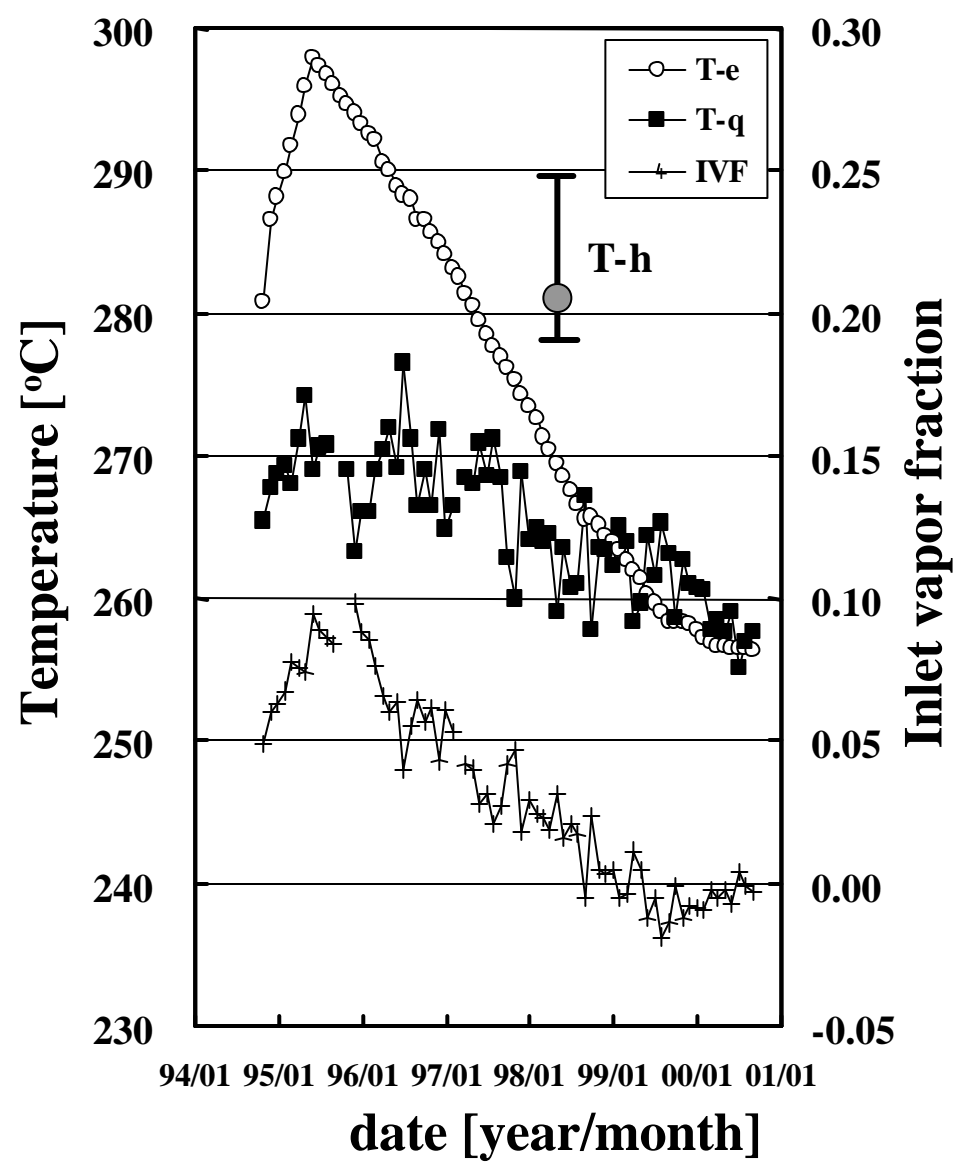


図3.4 シリカ温度、エントルピー温度、蒸気流入率 (IVF) の経年変化 .
 IVFは本文参照 . 併せて流体包有物均質化温度 (T-h) も示す .

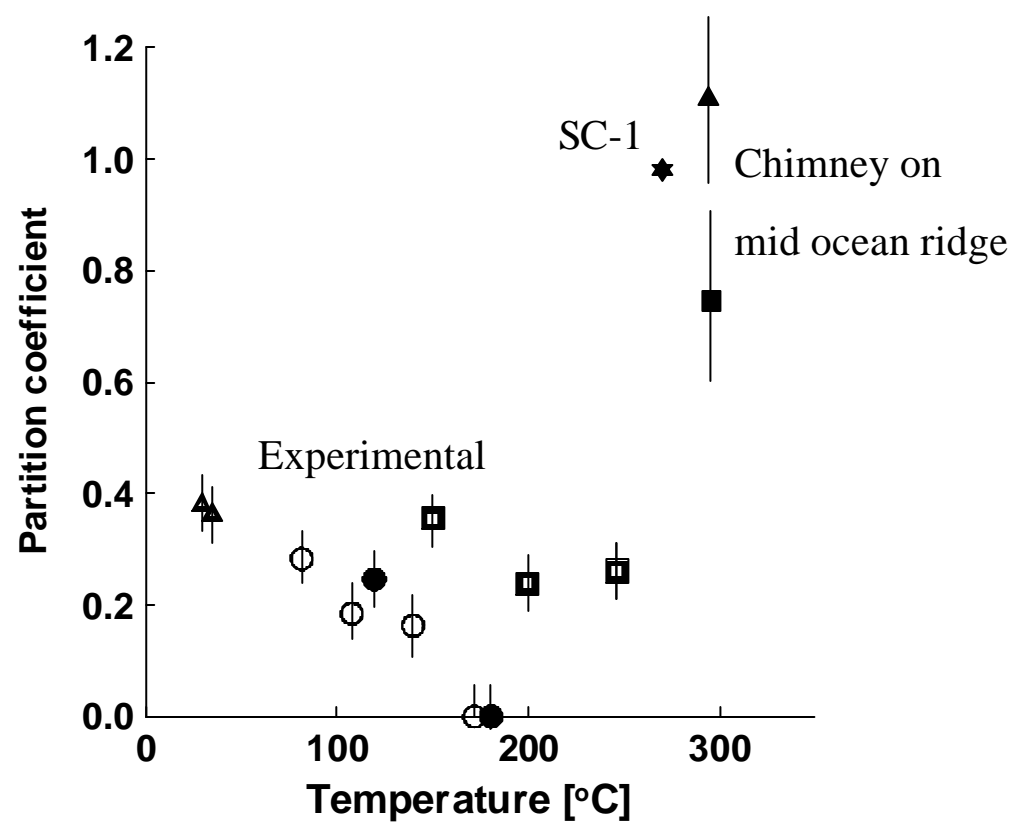


図3.7 SC-1坑熱水と硬石膏とのSr分配係数 . Shikazono and Holland (1983) の実験データと東太平洋海膨のチムニーの値を併せて示す .

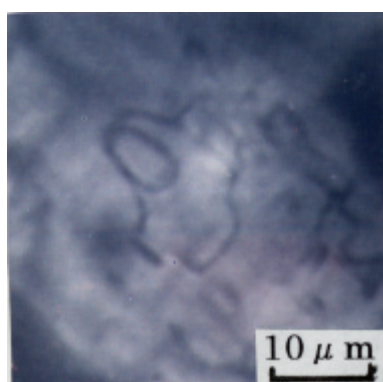


図3.8 硬石膏中の流体包有物の顕微鏡写真

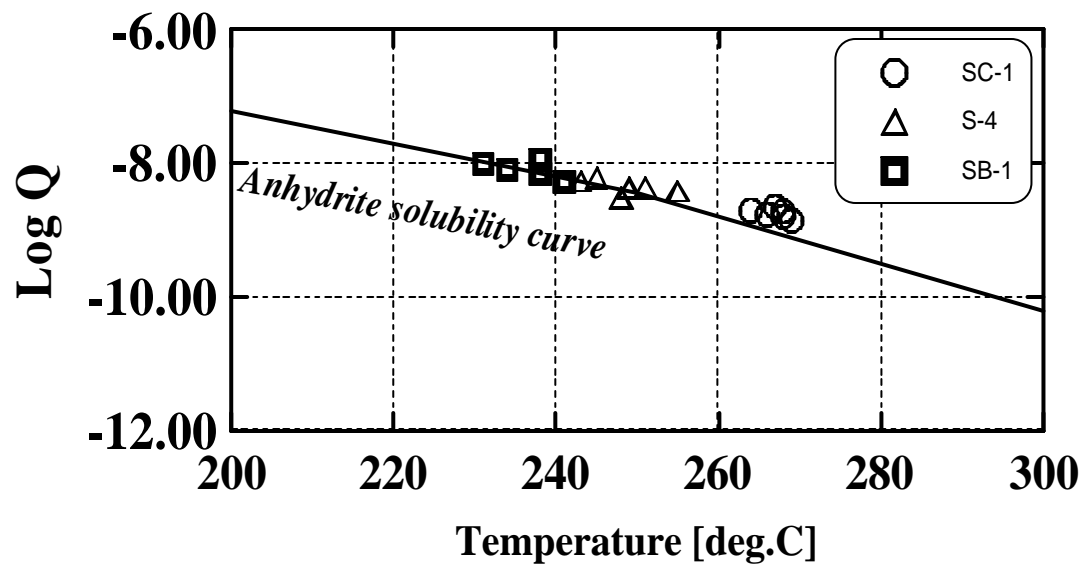


図3.12 澄川地熱流体の硬石膏の過飽和度

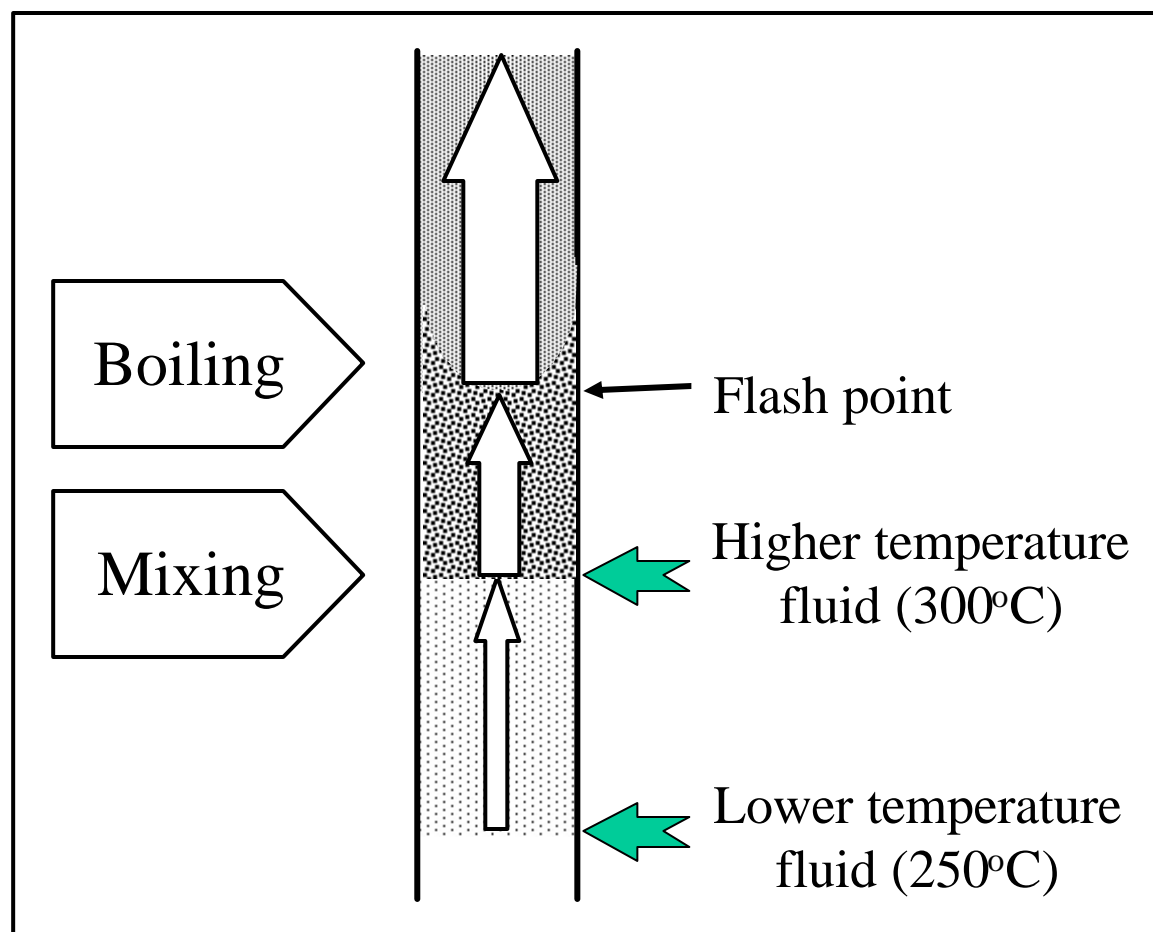


図3.13 SC-1坑井内で生じる物理過程の概念図。
低温流体と高温流体の混合の後、浅部で沸騰が起こる。

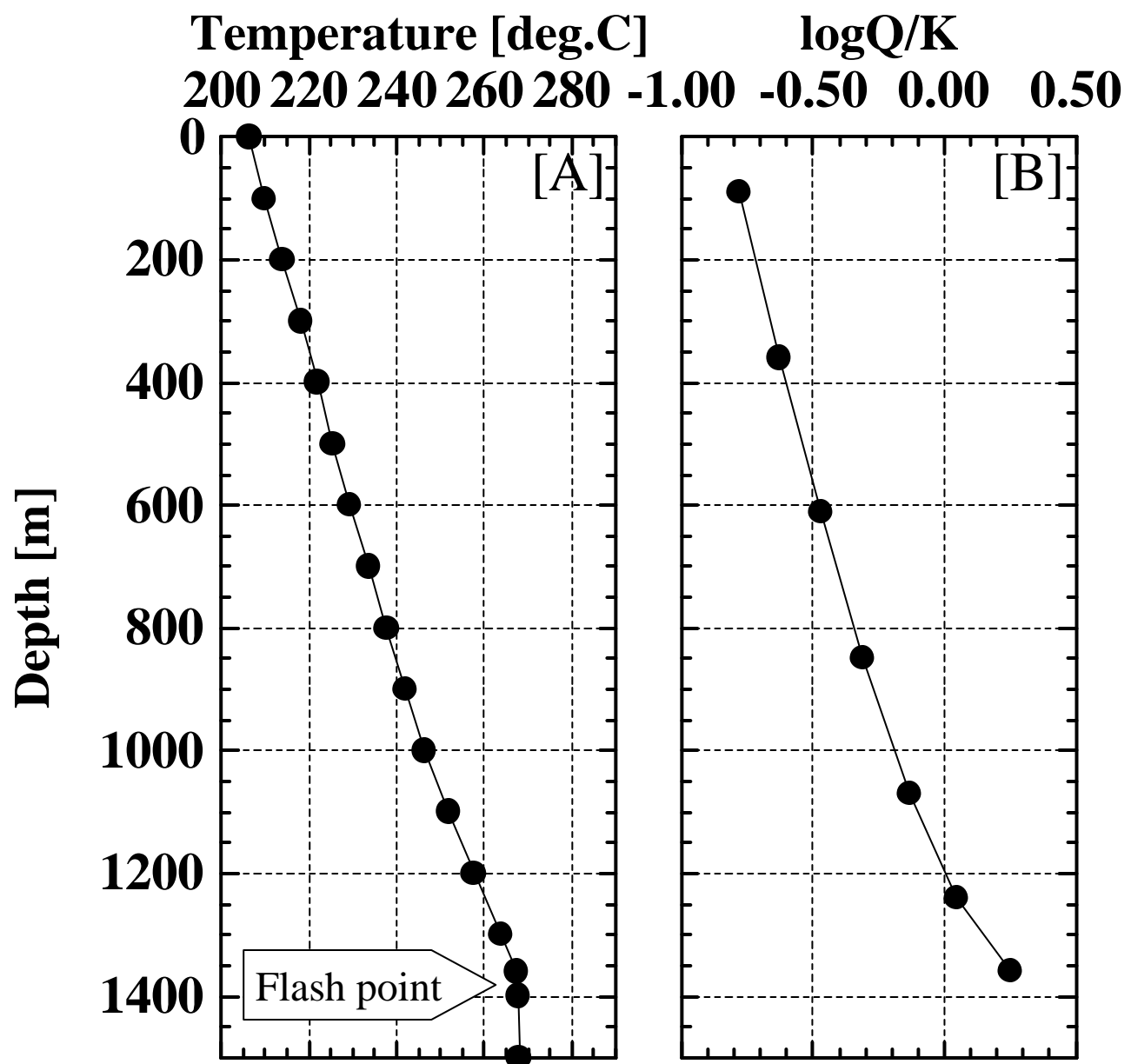


図3.16 フラッシュポイント以浅の坑井内温度分布[A]と硬石膏過飽和度の分布[B] (沸騰モデル計算結果)

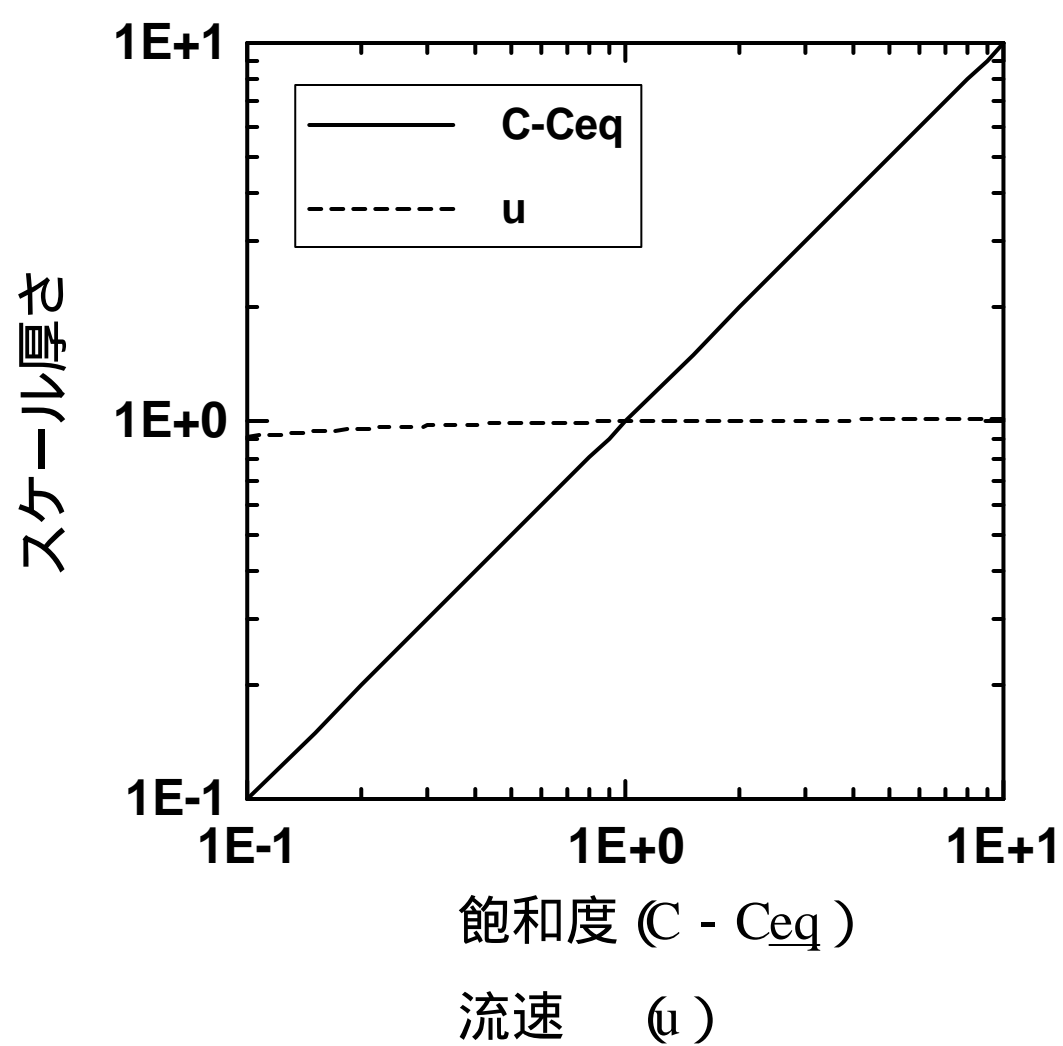


図3.21 過飽和度 ($C - C_{eq}$) と坑井内流速 (u) をパラメータとしたスケール層厚に対する感度解析結果．横軸は1998年10月のデータ ($C - C_{eq}$ と u) で規格化された値を、また、縦軸は同データで求められたスケール層厚 (d) で規格された値を示す．

表3.1 スケールの化学分析結果

	wt. %
SiO ₂	0.21
Al ₂ O ₃	0.09
Na ₂ O	0.02
K ₂ O	<0.01
CaO	41.31
SrO	0.30
MgO	0.05
SO ₃	56.03
Ig-loss	1.45
(CO ₂)*	(0.13)
Total	99.46

* CO₂ is included in Ig-loss.

表3.2 SC-1坑熱水の化学分析結果（大気圧状態）

Date		1997/12/3
pH	[-]	7.5
EC	[μ S/cm]	2,350
Na	[mg/kg]	372
K	[mg/kg]	63.2
Ca	[mg/kg]	3.9
Mg	[mg/kg]	<0.1
Sr	[mg/kg]	0.03
Al	[mg/kg]	2.0
Fe	[mg/kg]	0.05
Cl	[mg/kg]	549
SO ₄	[mg/kg]	131
HCO ₃	[mg/kg]	46
B	[mg/kg]	249
SiO ₂	[mg/kg]	823